

ゆめ・まち・みらい

vol.12



阪急阪神ホールディングスグループ社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」情報誌

[2012年冬号(年4回発行)]

宝塚時代に学んだ 人間としての 美しい生き方

ゆめ・まち・みらい インタビュー

春野 寿美礼さん

(元・宝塚歌劇団花組トップスター)

●ゆめ・まち基金 助成対象団体レポート

「NPO法人 CAPセンター・JAPAN」
「森林ボランティア 菊炭友の会」
「神戸JAZZ実行委員会」

●活動レポート

阪急阪神ビジネスアソシエイト
頭本 知寿さん

●こちら事務局

「市民団体助成プログラム
アンケート実施のお知らせ」
「書き損じハガキ寄付プログラム」



阪急阪神ホールディングス グループ

「阪急阪神 未来のゆめ・まち
プロジェクト」とは

2009年よりスタートした、阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献プロジェクト。
「未来にわたり住みたいまちづくり」を方針に、「地域環境づくり」と「次世代の育成」の分野で、
グループ会社や従業員など、さまざまな連携を通じて活動を進めていきます。

こちら事務局

沿線でがんばる市民団体を応援しよう!

市民団体助成プログラム

アンケート実施のお知らせ(2/5(日)締切)

基金の
ご案内

従業員有志の寄付を積み立て、会社からの同額寄付と合わせて阪急阪神沿線の市民団体を助成する「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 市民団体助成プログラム」。今年度の公募には、75団体からの申請をいただきました。ゆめ・まち基金にご参加の方には、1月下旬頃、本選考に残った団体についての選考アンケートを各社庶務担当を通じてお送りします。アンケートの結果は、最終選考に加点いたしますので、ぜひご回答下さい!

なお、2月15日・16日に実施する本選考における従業員代表は以下の方々です。

阪急電鉄株

都市交通計画部 九後順子さん

(株)阪急阪神交通社ホールディングス

CSR・コンプライアンス推進部 小野可津子さん

阪神電気鉄道株 運輸部 濱田環樹さん

(株)阪急阪神ホテルズ 総務人事部 木田好充さん

「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」への参加は随時、受付中です。

皆さまのご参加お待ちしています!

※詳しくは、下記ホームページの「従業員向けページ」をご覧下さい。

助成プログラム審査の流れ

12月19日

事務局による書類選考

1月下旬

従業員アンケート送付

2月5日

従業員アンケート締切

2月15・16日

会社・従業員代表による最終選考

3月末

助成実施

「書き損じハガキ寄付プログラム」開催中!

回収期間は12月26日(月)~1月31日(火)

5
ポイント
イベントの
ご案内

「身近な社会貢献活動」として毎年開催している「書き損じハガキ寄付プログラム」。今回は東日本大震災で親を亡くしたこども達を支援するため、お預かりしたハガキを切手に交換し、あしなが育英会に寄付します。ご家庭の書き損じハガキを、ぜひお寄せ下さい!



主な回収場所: ①阪急電鉄本社ビル 2F従業員食堂
②阪神電気鉄道本社ビル 10F従業員食堂
③阪急阪神交通社ホールディングス ハービスOSAKA16F
④大阪新阪急ホテル B2F従業員食堂 など

※個人情報は必ず塗りつぶして入れて下さい。

※ポイント申請とあわせて事務局に社内便や郵送などでお送りいただいても結構です。

※切手への交換手数料は事務局が負担します。

寄付先: 「あしなが育英会(東日本大地震・津波遺児募金)」

病気や災害、自死(自殺)で親を亡くしたこども達を物心両面で支える民間非営利団体。そのなかでも、東日本大震災で親を亡くしたこども達への特別一時金の支給や、心のケア活動に寄付する。

回収結果: 次号でご報告

ポイント申請: 書き損じハガキの寄付活動に対して社会貢献ポイント(5ポイント)付与。下記URLの「TOPICS」より申請書をダウンロードし、2月末日までに、ご申請下さい。なお、期間中何回ご寄付いただいても、申請は1回限りです。

※上記以外の回収場所など、詳しくは阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクトHP内の従業員ページ(<http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/group.html>)内トピックス欄をご確認下さい。



絶滅危惧種

[Endangered species]

文字通り「何らかの対策をとらなければ、近い将来に地球から絶滅してしまうであろう野生生物」…それが絶滅危惧種。IUCN(国際自然保護連合)では地球上の絶滅危惧種を記載した「レッドリスト」を作成しており、2010年度版では登録数は何と18,351種。自然環境の悪化や人間による乱獲、外来種の持ち込みなど原因はさまざまですが、いずれにせよレッドリストは地球の危機的状況を物語っていると言えるでしょう。

※本誌P5「菊炭友の会」の記事もご参照下さい。



編集後記

幸多い一年を祈りつつ、年賀状をしたためました。書き損じたハガキは今年も回収箱に入れるつもりです。新年の喜びのお裾分けになればと願っています。(新美佳代)



「社会貢献」って奥が深いと改めて感じる今日この頃…皆さんに「社会貢献」についてもっとご理解いただけるように、今年一年もがんばります!(朝山千春)



阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局 阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務部社会貢献担当

shakai@hankyu-hanshin.co.jp TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174

ホームページ <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/>

従業員専用ホームページのユーザー名、パスワードは **8984** です。

阪急阪神 ゆめ・まち

検索



「阪急ゆめ・まち 親子チャリティコンサート」
で子ども達を夢中にさせた春野さんの語り。

宝塚花組の元トップスターであり、現在は主にシンガー・舞台女優として活躍されている春野寿美礼さん。2011年6月に開催された阪急電鉄主催の「第2回 阪急ゆめ・まち 親子チャリティコンサート」ではナビゲーター役に加え、オーケストラをバックに素敵な語りを聞かせて下さいました。

宝塚時代に学んだ 人間としての美しい生き方

**子ども達のエネルギーに
自分自身が元気になれた**

「阪急ゆめ・まち 親子チャリティコンサート」ではナビゲーターとして、普段の舞台とは違う体験をさせていただきました。最初は新しいチャレンジへの気負いが自分のなかにあったような気がしますが、幕が上がりつゝな気分がしますが、幕が上がつてみれば、会場は子ども達のワクワク感に満たされていて…まるでおもちゃ箱をひっくり返したようなキラキラとした空気でした。その純粋なエネルギーにふれると「何をカッコつけていたんだろう。一緒に楽しめばいいんだ」と、リラックスしてのぞむことができました。

今回、東日本大震災で被災され、関西へ移ってこられたお子さんもいて、舞台上での指揮者体験に参加

してくれたんです。どのように接すべきなのか…と少し悩みましたが、他の子と同様、重い体験などみじんも感じさせない明るい笑顔で…「コンサートを全身で楽しんでいる様子に、こちらが元気づけられたらいいです。悲しいことがあつたぶん、これからは楽しい思い出をいっぱいいくつてほしいなと願うと共に、未来ある子ども達に夢や希望を与えるこういったコンサートなどの取り組みを、今後も継続してもらいたいですね。

**私が行動する」とで
誰かを
勇気づけられるなら**

震災に関連し、最近はチャリティに参加する機会が増えました。7月にも同期の朝海ひかる、安

Profile

Sumire Haruno
春野 寿美礼さん

1991年宝塚歌劇団に入団。「ベルサイユのばら」で初舞台を踏み2002年、花組トップスターに就任。お披露目公演「エリザベート」では黄泉の帝王トートを演じ、緩急自在な歌唱力が絶賛を浴びる。2007年、惜しまれながら退団し、その後はシンガー・舞台女優としてコンサートやミュージカルに幅広く活躍。2012年5月~9月には東宝ミュージカル「エリザベート」でエリザベト役にて出演が決まっている。



▲すみれ募金では活動経費はすべて学校側が持ち、募金は全額寄付している。

**人間として大切なことは
舞台人としても
大切なこと**

宝塚時代には、色々なチャリティを行いました。音楽学校での募金

蘭けいとチャリティートークショーを行ったり、私自身のホームページでも義援金の受付をしています。震災という大きな出来事があり、自分にできることは一体何だろうと考えた時、とにかく行動しようと決めたんです。私が「頑張ろうよ!」とメッセージを送ることで、勇気づけられる人がいる。直接的にできることは少なくとも、私が行動することで支援の輪が広がり、何かにつながっていくかもしれません。

もともと私の両親が福祉活動に熱心で、幼い頃から一緒に募金箱を持つて街頭に立つたり、多摩川にお掃除のボランティアに行つたり。誰かが困っているなら助けるのは当たり前、人間は協力し合って生きていくもの…そう教えられてきました。そんな家庭環境に加えて、宝塚時代にもしっかりと奉仕精神の大切さを学んだので、私にとってチャリティは特別に行うことではなく、自分のできることを形にするという自然な行動なんです。

蘭けいとチャリティートークショーを行つたり、私自身のホームページでも義援金の受付をしています。震災という大きな出来事があり、自分にできることは一体何だろうと考えた時、とにかく行動しようと決めたんです。私が「頑張ろうよ!」とメッセージを送ることで、勇気づけられる人がいる。直接的にできることは少なくとも、私が行動することで支援の輪が広がり、何かにつながっていくかもしれません。

もともと私の両親が福祉活動に熱心で、幼い頃から一緒に募金箱を持つて街頭に立つたり、多摩川にお掃除のボランティアに行つたり。誰かが困っているなら助けるのは当たり前、人間は協力し合って生きていくもの…そう教えられてきました。そんな家庭環境に加えて、宝塚時代にもしっかりと奉仕精神の大切さを学んだので、私にとってチャリティは特別に行うことではなく、自分のできることを形にするという自然な行動なんです。

蘭けいとチャリティートークショーを行つたり、私自身のホームページでも義援金の受付をしています。震災という大きな出来事があり、自分にできることは一体何だろうと考えた時、とにかく行動しようと決めたんです。私が「頑張ろうよ!」とメッセージを送ることで、勇気づけられる人がいる。直接的にできることは少なくとも、私が行動することで支援の輪が広がり、何かにつながっていくかもしれません。

宝塚音楽学校
「清く、正しく、美しく」をモットーに
舞台人として、人間として、タカラジェンヌ達を磨く学校。

春野寿美礼さんをはじめ、多くのタカラジェンヌを舞台へ送り出してきた宝塚音楽学校。「清く、正しく、美しく」を校訓に、舞台人としての技能だけでなく、清純高雅な精神や教養を育てることをモットーとしています。そんな人格教育のひとつが募金活動による社会貢献。春は本科生と予科生が宝塚大劇場正面玄関前で、秋は予科生のみが阪急宝塚駅周辺で行います。特に春の「すみれ募金」は、昭和40年から続く伝統行事。初々しい袴姿を目当てにファンも集まる宝塚の風物詩です。今西副校長は語ります。「2011年の『すみれ募金』は、東日本大震災義援金として日本赤十字社に託しましたが、募金の寄付先はその時々でふさわしい事業を選択します。チャリティを通じて生徒達が学ぶのは『感謝の心』や『人への心遣い』。例えば募金箱を差し出す時も、子どもには目線を下げて、杖についている方にはこちらが近づいて…。」とのこと。『舞台を見れば、その人の私生活がわかる』と語った小林一三翁の精神が、ここには脈々と息づいています。

詳しくはホームページで <http://www.tms.ac.jp/>

宝塚歌劇団各組生徒が呼びかけた募金とチャリティ公演の収益からの寄付をあわせた「東日本大震災義援金」は、これまでの合計金額で1億3,100万円となります。義援金はすべて日本赤十字社と桃・柿育英会 東日本大震災遭難児育英資金へ寄託されました。また6月の「阪急ゆめ・まち親子チャリティコンサート」の寄付金については、あしなが育英会(東日本大地震・津波遭難募金)に寄託されました。被災された方への一助になればと願っております。

**CAPプログラムで
子ども達が学ぶこと**

安心・自信・自由

あなたは「安心・自信・自由」という大切な権利を持っているんだよ…このことを伝えるのはCAPプログラムの核といえる部分。自分の権利を知った子ども達は、一人ひとりが大切な存在であることに気づき、自分自身を肯定的に見られるよう变化していきます。

NO・GO・TELL

実際にどのように行動するかを示す「NO・GO・TELL(いやと言う・逃げる・誰かに話す)」は、「安心・自信・自由」を伝えた後でこそ効果的。大切な自分を守るためにできることを考えようと、ともに考えていくなかで、「自ら行動の選択肢を選ぶことができる」と気づき行動できるようになります。

**CAPプログラムの
サクセストーリー**

プログラム参加者の声を、一部ご紹介。もっと知りたい方はCAPセンターのウェブサイトから「サクセストーリー」にアクセスして下さい。

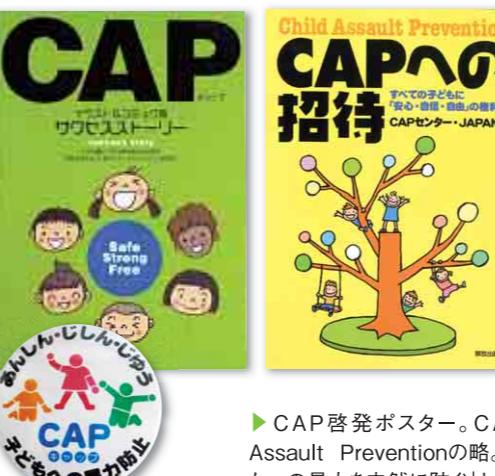
- 学校から一人で帰宅途中、軽トラックに乗った男の人に「お母さんが病気で入院したから連れて行ってあげる」と腕をつかまれたが、大きな声を出して逃げることができた。また、警察で人相など、覚えていることを話すことができた。(小3)
- 仲良しグループから無視されて悩んでいたが、ワークショップで教わり「無視も暴力だ」とわかったのか、向こうから声をかけてくれた。(小5)
- 子どもが数か月前から「学校に行きたくない」と言っていたのに話を聞かなかった自分に気づいた。CAPで習った通りにすると、子どもの口からあふれるように言葉が出てきた。(保護者)



▶CAPの理念や内容を紹介する書籍やコミックを出版したり、「安心・自信・自由」のスローガンをバッヂにしたり。このような広報活動にも、助成金は活用されています。



▲ワークショップは「子ども達が自ら気づくことができるよう」に、ロールプレイング・スタイルで。



▶CAP啓発ポスター。CAPとはChild Assault Preventionの略。文字通り「子どもへの暴力を未然に防ぐ」という意味です。



「安心・自信・自由」を すべての子ども達に

「児童虐待」や「いじめ」のない社会へ

「CAPプログラム」という言葉を聞いたことがありますか？

児童虐待やいじめを「未然に防ぐ」ことを目的に、子ども達が暴力の被害者とならないよう「意識」と「知識」を育てるトレーニングです。

これを実践するCAPスペシャリストと言われる実践者を養成し、各地のCAPグループを統括するのが「CAPセンター・JAPAN」(CCJ)です。

**暴力の被害者である
子ども達を救うために**

児童虐待、いじめ…どちらも被害者となるのは、子ども達です。そこには圧倒的な力の不均衡があり、加害者は自分が強い立場であることを利用します。それゆえ被害者は無力感のなかで声を上げることができず、明るみに出ないまま暴力が継続されていくケースが多いとか。そんな悪循環を断ち切るために、どうすればいいのでしょうか？

「暴力には、被害者、加害者だけでなく、必ずそのまわりに人が存在します。

よりも「自分は大切な人」という人権意識を育み、被害者になり得ることも達に「NO」と言つてもいいことや、自己防衛の手段を伝え、ともに考えることで、問題解決に向けて一歩でも前に進みたいと考えています。そう語るのはCCJ理事長を務める側垣さん。暴力の被害者、加害者、傍観者にもならないよう、子ども達自身を教育する。それがCAPプログラムなのです。

**ワークショップは
大人と子どもを同時に**

ても大切だからです。被害者のこどもには何の罪もありません。例えば暗い夜道で危険な目にあつたこどもに『そんな所を歩いたあなたも悪い』などと言えば、その子は「一度と誰にも訴えることができなくなるんです」と側垣さん。プログラムは、3歳から中学まで発達段階に応じて分かれ、障がいを持つ子ども向けのものも用意されています。

**プログラム参加による
子ども達の「気づき」**

もともと米国で開発されたCAPプログラムは、1985年に日本へ紹介され、徐々に広まっていきました。現在は全国各地に活動グループがあり、教育機関などの要請に応じて「ワークショップを開いています。

「各グループが開催するワークショップの質が保たれるように支援したり、CAPスペシャリストを養成するのが、私達CCJの役割です。これまでに430万人以上がプログラムを体験し、地域によっては学校の授業に取り入れて下さっています。実際に参加した多くのこども達に気づきがあり、今まで表に出なかつた暴力が発覚するなど、効果が実感できるからでしょう」。

それから、と側垣さんは顔を輝かせます。「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金の助成を受けられたことは、私達にとって大きな喜びです。金銭的なことでですが、私達の活動を評価いただけたことで今後の事業展開を創造する大きなパワーをいただけた気がします」。すべての子ども達が幸福に暮らせる社会をめざし、これからもCCJの活動は続きます。

CAPセンター・JAPANに興味を持たれた方へ

CAPセンター・JAPANでは活動を支援する会員を募集しています。

- 正会員……総会での議決権を有します。(年会費20,000円)
- 賛助会員……年2回、ニュースレターが届きます。(年会費2,000円～/個人一口)
- 活動会員……CAPスペシャリストを対象とします。(年会費3,000円)

CAPスペシャリストとして活動に関わりたい方は、養成講座を受けてみませんか。詳しくはホームページをご覧下さい。

NPO法人 CAPセンター・JAPAN 事務局

〒662-0825 兵庫県西宮市門戸荘17-34 スマイルヴィラ105
TEL:0798-57-4121
<http://www.cap-j.net/>

CAPプログラムには、大きく3つの特長があります。1つ目は、こどもが自分の権利を学べること。誰もが「安心・自信・自由」という大切な権利を持つて、それを奪われるのが暴力であることで、それを奪われるのが暴力であります。2つ目は、具体的に身を守る術を学べること。単に講義を行なうのではなく、参加型のロールプレイを通じて「いやと言ふ」「逃げる」「誰かに話す」という選択肢を、自ら選べるようになるよう導きます。

そして3つ目は、必ず大人向けのワークショップも同時に開くこと。

「なぜなら、こども達にとつて大人が安心して話せる存在であることが、ど



グループ従業員の皆さんから
寄せられた活動レポートをご紹介

活動レポート18

「震災を風化させないで欲しい」という 被災地の思いを、伝えていきたい

阪急阪神ビジネスアソシエイト 頭本 知寿さん



「震災を風化させないで欲しい」という被災地の思いを、伝えていきたい
阪急阪神ビジネスアソシエイト 頭本 知寿さん

関経連（関西経済連合）が行う東日本大震災の支援活動に参加して、宮城県南三陸町へがれき撤去のボランティアに向かったのは9月21日。折しも台風の直撃と重なり、交通規制により行程を変更しつつも22日夜に現地入りしました。到着して感じたのは「本当に津波はすべてを奪い去つて行ったのだ」ということ。仙台市内は街の人々も賑わっており、復興の兆しを見せていたのですが、バスが南三陸町へ入ったとたんに広がる荒涼とした風景。思わず言葉を失いました。

ボランティアは23日の朝から夕方まで。土やがれきに埋まつた埋没物を掘り出しては分別する作業でした。たった1日のお手伝いで何が変わるのか…無力さを感じた時、私の役割は「現状を伝えていくこと」だと思いました。南三陸町で被災者でもあるホタルの女将さんから話を聞いたのですが、何より心に残つたのが「震災を風化させないで欲しい。被災地のことを忘れないで欲しい」という言葉。関西に暮らしていると、まだ深い傷跡が残されたり、一過性の支援でなく、息の長い取り組みが必要だと感じました。機会があれば足を運び、自身の目でご覧になることをおすすめします。



作業の様子。参加者40名で、25m×15mの区画を担当

おすすめ！ボランティア

File:03

豊かな自然を守り育てるために… うど鵜殿のヨシ刈り祭り

昔から人々が利用し守ってきたヨシ原。ヨシ原を手入れし育てる大切な活動であるヨシ刈りを行うことで、春には豊かな自然が育ち、多くの希少な生き物の生活の場となります。また、淀川・鵜殿のヨシは最上の素材として、世界無形文化遺産である雅楽の楽器、「ひちりき」のリードに使われています。重量が軽く、女性やファミリーでも気軽に取り組んでいただけるヨシ刈り。自然に思いをはせながら、気持ち良い汗をかいてみませんか？

開催日時：2012年1月～2月中旬
場所：鵜殿のヨシ原（高槻市、阪急電鉄上牧駅徒歩15分）
参加費：無料
事前受付期限：希望日の3日前
参加記念品：ヨシ紙
申し込み方法：お名前、ご連絡先、参加希望日を下記にご連絡下さい

お申し込み・お問い合わせ先：鵜殿ヨシ原研究所

◆淀川・鵜殿のヨシ原の自然と生き物の保全、ひちりきのヨシを育てることを目的に活動中。

TEL: 090-3991-1646 FAX: 072-891-4751
URL: <http://udono.jimdo.com/>

みのりのもり劇場 太秦手づくり二土の市

地域活性を目的として定期的に行っている、参加型手づくり市の「太秦手づくり二土の市」。「つくる」で人と人をつなぐ、わくわくがいっぱいの手づくり市に、近隣地域だけでなく、京都府内外からも多くの方が集まっています。「子どもを育み、親を育て、親子を支える」まちづくりを目標に掲げているみのりのもり劇場。まずはご家族そろって、気軽に参加してみて下さい！

開催日時：毎月第二土曜日 10:00～16:00
場所：美乃里学園自然幼稚園
園庭（京福電鉄太秦広隆寺駅徒歩2分）

NPO法人 子育ては親育て・みのりのもり劇場

◆「なにかを始めたい、発信したい」人々が世代を超えて集まり、子育て支援・地域活性活動を精力的に展開中！

TEL: 075-882-3309
MAIL: info@minorinomori.com

兵庫県川西市にある黒川地区は「ほんの里100選」にも認定された生きた里山。ここは茶道具に欠かせない、炭のなかでも良質な「菊炭」の生産地でもあります。しかし近年では炭材となるクヌギの数が減り、その存続が危ぶまれていました。そこで2005年に立ち上げられたのが、森林ボランティア「菊炭友の会」。地元自治会と整備協定を結び、「里山の整備・保全活動」や「クヌギの萌芽更新の促進」などを行い、自然と伝統文化を守る活動を行っています。また同時に力を入れているのが、絶滅危惧種※である自生の桜・エドヒガンを救うための生育環境の整備。結果「黒川・桜の森」の知名度が上がり、来訪者の増加にも貢献しています。生物多様性の大切さを

伝えたいと始めた小学生向けの自然体験学習も、回を追うごとに保護者の参加が増え、大人の関心をも高める結果に。人々の暮らしを支えてきた豊かな里山を後世に残すため、今後も多彩な取り組みを進めています。

※裏表紙「未来をつくるコトバ」参照

森林ボランティア 菊炭友の会 代表者 大門 宏

〒666-0111 川西市大和東1-93-9 TEL/FAX 072-794-8605

URL <http://kikuzumi2.exblog.jp>

伝統文化から絶滅危惧種の保全まで
日本の原風景を守り
伝えていくために

Series 12

森林ボランティア
菊炭友の会

日本のジャズ発祥地、神戸で毎年10月に開催されるプロ・アマ共演のジャズフェスティバル「神戸JAZZ」。阪神淡路大震災から10年後の2005年、元気になった神戸をアピールするため市民の企画事業としてスタートしました。ジャズという音楽を通じて、次世代を担う中高生達の創造力や生きる力を育むことを目的とされています。今や恒例イベントとなつたコンサートは、舞台づくりも中高生が主体的に取り組み、第1部が中高生ら、第2部がプロミュージシャンによる演奏プログラム。白熱のステージが毎年、客席を魅了します。今年は会場内で東日本大震災募金も実施し、多くの義援金が集まりました。また参加する中高生バンドをプロが直接指導する事前のワーク

ショップも大好評。多感な時期に一流の演奏者の指導を受けることで、大いに感性を刺激される様子が伝わってきます。今後もワーク・ショップの全国展開や海外の音楽大学と連携して、ステータスを模索していく活動を模索していくことをお



神戸JAZZ実行委員会 運営事務局 代表者 竹上 純

〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-2-1 (株)ジーベック内

TEL/078-303-6333(平日 10:00～18:00) FAX/078-303-4632

Email info@kobejazz.ac URL <http://kobejazz.ac>

若者の夢をジャズで
舞台に立ち神戸から
プロとアマが同じ
エネルギーを発信！
刺激するイベントを開催

Series 13

神戸JAZZ
実行委員会